

歯周病唾液検査 5 年間の実績報告

(公財) 島根県環境保健公社

○三島 悠子 高木 繁 小西 敦子
戸田 隆士 藤原 治美 田原 歩華

はじめに

歯周病は、歯周病菌の感染により歯肉や歯槽骨に障害を与える炎症性の疾患で、歯の喪失をもたらす主要な原因疾患である。歯を失うだけでなく脳血管疾患や心筋梗塞、糖尿病など全身の健康に影響を与えているとされている。

歯周病の検診は、平成 7 年度より老人保健事業における総合健康診査の一環として導入され、平成 20 年度からは健康増進法に基づき実施されている。島根県では、平成 22 年 3 月に「島根県歯と口腔の健康を守る 8020 推進条例」が制定された。これを受け当施設では、平成 24 年度より唾液中のヘモグロビンと LDH (乳酸脱水素酵素) を測定する歯周病疾患スクリーニング検査を開始したので、その実績について報告する。

対象および方法

平成 24 年 4 月から平成 29 年 3 月までの 5 年間に歯周病唾液検査を受診したのは 3,453 名であった。そのうち性別、年齢が明らかである 2,973 名の結果について検討した。

検体は栄研化学唾液採取セットを使用し受診者本人が採取した。ヘモグロビンはラテックス凝集反応を用いた免疫比濁法 (栄研化学 OC センサー-DIANA)、LDH はワコー-JSCC 標準化対応試薬 (日立 LABOSPECT008) により測定した。

ヘモグロビン 2 μ g/ml 以上または LDH350U/L 以上を陽性とし、要精密検査と判定した。

結果

1. 基本統計

対象人数に性差はなく、平均年齢は男性 51.1 歳、女性 50.1 歳であった。年代別にみると 40 代、50 代が多く半数以上を占めた。(表 1)

全体の陽性率は 44.9%、平均値はヘモグロビン 22.5 μ g/ml、LDH306.5U/L であった。

表 1 対象の性別、年代別分布 (人)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
男性	18	78	182	428	414	274	121	23	1,538
女性	25	146	195	328	350	209	141	41	1,435
合計	43	224	377	756	764	483	262	64	2,973

2. 男女別による比較

陽性率は男性 43.8%、女性 46.1%で女性が高いものの大きな差はみられなかった。(図 1)

平均値はヘモグロビンが男性 24.8 μ g/ml、女性 20.1 μ g/ml で男性が高く、LDH は男性 273.9U/L、女性 341.4U/L で女性が高い結果であった。

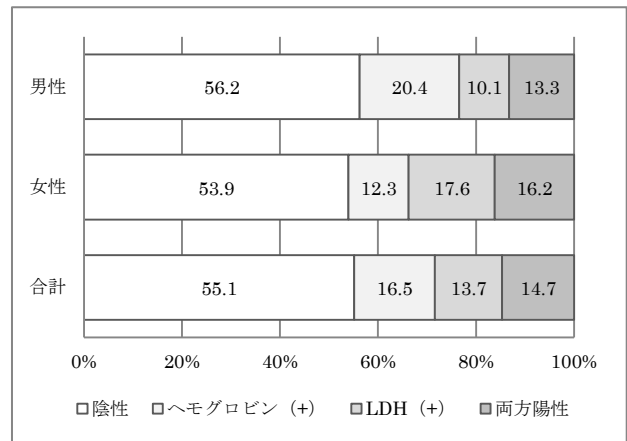


図 1 男女別陽性率

3. 年代別による比較

陽性率は 20 代が最も高く 55.8%であった。30 代以降は年代が上がるにつれ陽性率が増加する傾向がみられた。(図 2)

平均値はヘモグロビンが 40 代から急上昇し、50 代以降も高値を維持した。LDH は 20 代と 70 代、80 代が高値であった。(図 3)

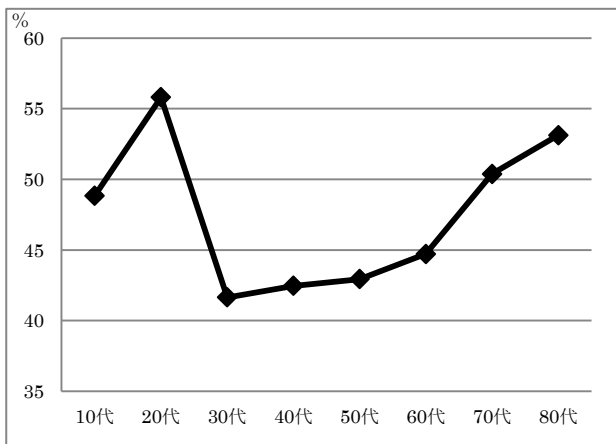


図2 年代別陽性率

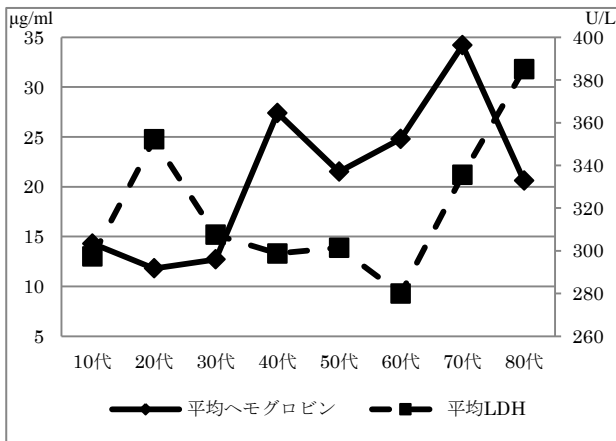


図3 年代別平均値

4. 年度別による比較

平均年齢は上昇するが、陽性率は減少する傾向がみられ（図4）、同様にヘモグロビン、LDH 平均値も低下傾向であった。

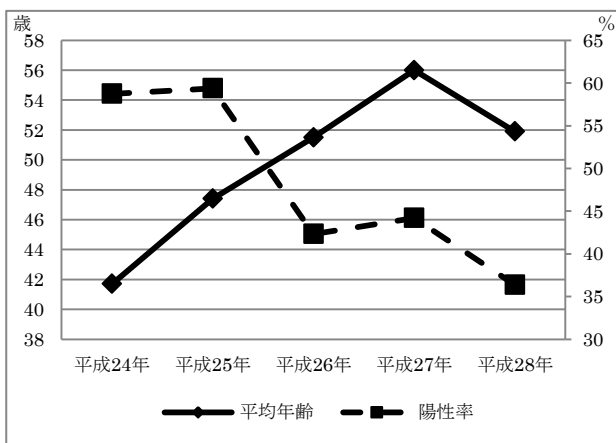


図4 年度別平均年齢および陽性率

考察

今回の結果では陽性率に性差はなく、30代以降は年代が上がるにつれ増加する傾向がみられた。ヘモグロビンは40代以降で急上昇し、LDHは20代と70代、80代が高値であった。歯周疾患の罹患状況を示す指標である4mm以上の歯周ポケットを持つ者の割合について、高齢になるにつれ増加するとの報告と概ね一致する結果であった。年次推移をみると増加傾向だが、当施設の陽性率は減少傾向であった。これは、継続して検査を実施している事業所または市町村等があることから、要精密検査と判定された者が治療を行い口腔状態が改善したこと、検査実施により歯の健康について意識が向上したこと等が一因として考えられ、歯周病唾液検査の有効性が示唆される。

しかし、島根県の1人平均現在歯数および20本以上の歯を有する者の割合の年次推移からみる歯の健康状態は向上しているものの、全国と比較して下回る結果となっている。歯科疾患予防や早期発見、早期治療の重要性をさらに啓発する必要がある。

まとめ

歯周病唾液検査は従来の歯科医師による検診と比べ安価であり、痛みや侵襲性がない。検体の採取に関しては、特別な技術を必要としないことから受診者本人が採取でき、短時間に多くの検体を集めることができるため効率的なスクリーニング検査といえる。当施設の5年間の結果からも歯周病唾液検査の有効性が示唆されることから、集団検診に取り入れることを推進し島根県民の健康増進につながるよう努めたい。

参考文献

- 1) 8020推進財団：唾液検査標準化に関する研究
- 2) 厚生労働省：歯周病検診マニュアル2015
- 3) 厚生労働省：平成28年歯科疾患実態調査結果の概要
- 4) 島根県歯科医師会 他：今後の産業歯科保健対策のあり方について
- 5) 島根県歯科医師会 他：平成27年県民残存歯調査報告書